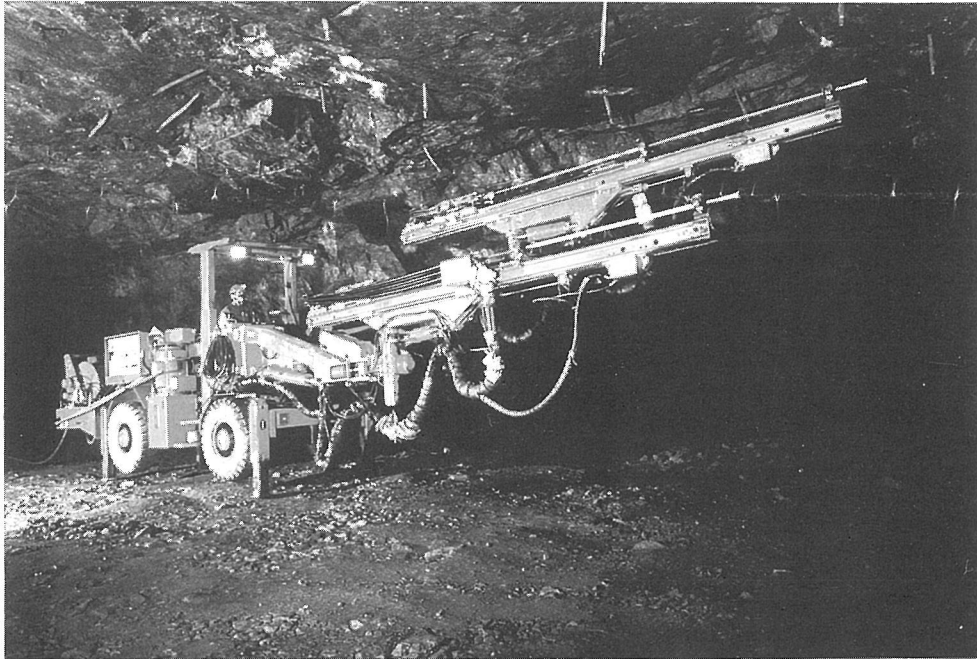


日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局
 〒 470-11
 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1-98
 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教
 室内 電話 (0562) 93-2453
 FAX (0562) 93-3079
 発行責任者 竹内康浩・島 正吾

(題字 皿井 進筆)



油圧モバイルジャンボの全体像
 (運転者との対比で「ジャンボ」の大きさを想像してほしい)
 提供 神岡金属鉱山

さく岩機の今昔から考えて

岩 田 弘 敏 (岐大・医・衛生)



1964年、さく岩機の振動を測定するために神岡の金属鉱山内に初めて入ったころは、回転と打撃の振動を岩盤に与えて孔をあけるのだから、振動の生じない機械などできるはずがないといわれたものである。しかも振動が

大きければ大きい程さく孔能率が上がるので、振動を小さくすることは不可能に近いといわれたりもした。もともと手握りの道具から作業能率を上げるために固定式の回転速度をあげた機械が開発された。更に、圧搾空気をういた動力に発展した。そして、防塵対策を加味して湿式さく岩機が開発された。そのため金属鉱山内の湿度が高まり気温は低下し、労働者に冷えを感じさせるようになった。その上、従前以上に大きな振動に暴露されるようになったので、手腕系の振動障害が多発した。当時、工具使用の時間を短縮することだけが振動障害の予防であった。

約20年後、同じ金属鉱山を訪ねる機会があり、鉱内いたるところで、ジャンボさく岩機(油圧モバイルジャンボ)が駆動しているのをみたときは隔世の感を抱いた。何本もの孔が一瞬のうちに岩盤に

あく時代がきた。さく岩機そのものの振動減衰のための改良はほんのわずかしかなかったが、労働者に直接、振動が工具から伝わる工程はなくなっていた。こうなると、これは振動工具の定義から外れる。しかし、依然、騒音の問題は残るし、他の新たな要因による問題が発生することも予想される。同じ振動工具でもセンサーなどは改良に改良が繰り返され、小型軽量で低振動化したものになってきた。使用時間の制限をそろそろ緩めてもよさそうになっているが、決行できない面があるのは他の問題を危惧するためであろうか。

現在、産衛振動障害研究会では手腕系振動障害予防のためのガイドライン、つまり振動の大きさとそれに応じた使用時間の制限を示すものであるが、これを作成中である。労働衛生の進歩が工学、機械学などの産業の発展を促したのか、予防のためのガイドラインができあがったときには時すでに遅く振動障害がなくなっているかも知れない。つまり産業の発展で生じた健康問題に労働衛生が動機づけをし、働く人々の健康を衛る方向に産業を再発展させていると考えることができるだろうか。

特別寄稿

色覚異常者の就職・就労問題について

高柳 泰世 (本郷眼科)



色覚異常者の就職・就労問題については、70年間に亘って日本では大きな、また根深い誤解のもとに、色覚異常者の将来の夢を断ち、また企業側としても大きな人材の損失をしてきたものと思われま

す。「色覚の異常は仕事をする上で障害になる」との考えは、1921年に学校用石原式色盲表第1版が出版され、その解説のなかに、

色覚異常者の職業について記されていたものがもとになっていると思われま

す。色覚異常者から「正当な能力評価を」との訴えもなく、その就職・就労に際し個々に能力を試す機会を与えられずに、過少評価されてきました。私もその様に教育されて来た一人ですが、1969年から1971年までの2年間のアメリカ生活のなかで、医学部の教授、工学部の教授、学校教員のなかに何人か色覚異常者がいて、何の問題もなく仕事をしているのを見て、色覚異常に関する日本の考え方は間違っているのではないかと思いました。

1973年に本郷眼科を開業して間もなく、近くの学校医を委嘱され、熱心な看護教諭から、女子色覚異常者の遺伝相談、男子色覚異常者の進路相談を尋ねられました。当時は工業高校を志望する者は石原表による規定の用紙があり異常者は受験できませんでした。

大学における制限の実態を知るために全国466大学から入試要項を取り寄せ学部別・学科別に分類調査しました。そこで大変な実態が判りました。94国立大学の50%で、「色覚異常者は成績の如何に関わらず不合格とする」と記載されていました。四肢の不自由な者にも適正な職場をとる傾向になっている現代、本来平等に門戸を開くべき大学でこのような制限がありました。そこで日本眼科医会を通じて国立大学協会に、制限の緩和撤廃を申し入れました。国大協は素早い対応改善を示され、それが公立大学協会、私立大学協会にも敷衍し、1994年度では制限している大学は94国立大学のうち2校、333私立大学のうち2校のみとなりました。労働省も文部省に倣って、改善を図っておりますが、その委託機関が「身体障害者雇用促進協会」でした。色覚異常者自身は身体障害者と思っていないと思います。企業における色覚異常者制限の実態調査をして、色覚異常者の能力評価および制限緩和を呼び掛けましたところ、1982年では制限なしは87.6%でしたが、1992年には93.7%になりました。制限理由は、電気関連企業ではカラーコードを使うから、コンピューター関連企業ではディスプレイが多色のカラーであるから等でした。

実際の色職別テストを数百例の強度色覚異常者に試しましたが、眼科学における先天性赤緑色覚異常に対する色覚検査結果とは大きく異なることが判りました。現場で実際の能力を試されるべきだと思います。このことに関しまして山田信也教授のご推薦による色覚異常者の社会生活改善に貢献ということ、「1993年度朝日社会福祉賞」を授賞させて頂きました。

シリーズ 若手産業医に聞く⑧

ある日突然産業医になって

後藤 円治郎 (住友軽金属)



昭和49年に名古屋大学を卒業し、その後10年間中部労災病院、次いで、7年間旭労災病院で、糖尿病を中心に内科勤務をしていました。平成3年4月から産業医として当所に勤務を始めました。労災病院勤務と言いましても、私の仕事は、一般診療が中心で産業医の職務はほとんど経験がなく、

その内容もあまり知りませんでした。旭労災病院勤務時に、同僚の呼吸器の医師が労働衛生コンサルタントの受験勉強をしているのを横で見ている、産業医の職務の3管理と言うものを知り、特にその健康管理について興味を持ちました。糖尿病の合併症が悪化し、腎不全になったり、網膜症で視力障害がきて、日常生活が極めて不自由な患者さんを多く診、病気が進行してしまったあとの治療に、何かむなしさがあり、早期の疾病予防の重大性を痛切に感じていた時でしたので、産業医として健康な人を管理していくのも大切ではないかと思い、労働衛生コンサルタント試験の勉強を五藤雅博先生の御指導でしたのが、産業医になるきっかけでした。

私の勤務する名古屋製造所は、港区の中部労災病院のすぐ前にあ

るアルミの圧延工場です。従業員数は関連会社の方を含め約2700名です。この方々を健康診断等で健康管理をしています。赴任1年目に、藤田保健衛生大の吉田勉先生の御協力ですべて導入し、翌年より、健康診断を誕生日実施に変更し、その結果を本人に報告する様にしました。明らかな疾病のある時はもよりの医療機関にお願いしたり、当センターで治療しますが、軽度の高脂血症、高血圧、耐糖能障害等の方の事後措置において困惑しております。健康診断で異常値がでた方を当センターに呼び、一人ずつ、食事運動等の生活について話をしていますが、呼んでも来てくれない方もあり、次の健康診断の時に、あまり時間がとれませんので、ごく簡単に話をすることで済ませている現状です。特にアルコール性肝障害の方に、いかに自覚を持たせるかは難しく、γ-GTPが常に高値を示していても、自覚症状がないため、禁酒、節酒等はせず、さりとて健康診断毎に呼び出しても、さほど新しい事も話せる訳ではなし、本人も去年と同じ程度なら大丈夫と思い、飲み続けるといった状態のくり返しです。この事は肥満、高脂血症、軽度の高血圧症でも同じで、検査結果は一昨年、昨年とはほぼ同様で、以前お話しした事と同じ話をするために今年も呼びだすのはどうかと、ためらっているのが4年目の現状です。こんな事では成人病の予防はおぼつかないと反省し、今後どうしようかとますます私の体がやせていく次第です。

このような事を書いてきますと、産業医の先輩の先生方からは、「何だこいつは、こいつは産業医ではなく、産業現場の診療所で働いている単なる医者だ。」とお叱りを受けるかと思いますが、この紙面をお借りして、今後ともよろしくお願い申し上げます。

話 題

愛知医科大学産業保健科学センターの誕生

堀 部 博 (愛知医大・産業保健科学センター長)



愛知医科大学(祖父江逸郎学長)は創立20周年を迎え、その記念事業として、①産業保健科学センターの設立、②医学部保健学科の創設、③高齢医学関連施策の推進、④テレメディスンによる地域医療計画の樹立、⑤医学振興基金の設置を計画しました。

この産業保健科学センターは、これまでの愛知医科大学の物的人的資源を、産業保健科学の振興のために効果的に活用しようとするものです。本センターは当面一種のプロジェクトセンターとして活動を開始しました。

図書館の近くに2部屋のオフィスを持ち、助教授が一人専任されています。現在事務は事務局総務部総務課がつとめ、5部門の構成員46名は兼任です。部門としては、①管理運営・教育情報部門、②臨床産業医学部門、③精神心理・職場適応部門、④健康測定・健康増進部門、⑤最適労働環境部門の5つがあります。

愛知医科大学の基礎・臨床の研究施設、付属病院、ユニークな運動療育センター、メディカルクリニックを活用して、これまで手薄

な産業保健科学の領域の教育・臨床・研究活動を強化するものです。これまでも、医師会・学会の研修会の講師をつとめたり、産業保健科学関連の研究を行ない、付属病院・メディカルクリニックにおいて職業病の相談・治療を行って来ました。

今回産業保健科学センターの設立により、それらの産業保健分野の活動を一層すすめるのが目的です。より開かれた大学の活動のひとつとして、近隣の諸大学との連携をつよめ、協力・叱咤・激励・援助を受けながら、社会への働きかけを強めたいと考えています。そのためにはこの日本産業衛生学会東海地方会の構成員の皆様のご理解とご協力をお願いしなければなりません。

そこで平成6年7月20日にささやかながら Hilton ホテルで開設記念式典を開き、講演会および懇親会を開きました。講演は、労働省労働基準局松村明仁安全衛生部長に「産業保健の21世紀への展望」、本学の運動療育センター長丹羽滋郎教授に「健康の保持増進と運動」と題して行われました。

人間の生産活動は世紀を重ねるにともない活発化し、技術は進歩し、それに伴い新しい健康障害も発生し、今後も発生してくるものと考えられます。働く人々の働く場所の最適化、その生活水準の向上、福祉の充実など限らない人間の進歩のための課題は次から次へと発生してきます。それらの課題に皆様と共に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

学会・研究会

第9回 健康度評価研究会

飯 田 英 男 (健康管理コンサルタント)

1. 日時 平成6年7月8日(金)
2. 場所 名大医学部鶴友会館会議室
3. 司会 飯田英男(健康管理コンサルタント)
4. 講演 (1) “健康度”に関する文献的考察
宮尾 克(名大・医・公衛)
(2) 健康度評価研究会のあゆみと健康度評価への試案
入谷辰男(トヨタ自動車)

宮尾先生は医学中央雑誌による検索で過去6年間(1987~1993年)に“健康度”のタイトルのつく文献116を列記され、その中で会議録を除く43論文について概説された。そして宮尾先生の考察として“健康度”の使われ方を8分類され、①ライフスタイル ②ヘルスプロモーション(オタワ憲章) ③THP ④QOL ⑤健康感SRH ⑥ホリスティックな健康度 ⑦疾病度 ⑧健康危険度評価システムHRA など多方面からのアプローチが行なわれていることを指摘された。最後にプレスローの近年の論文を紹介され、Johnson&Johnson社でのLFLプログラム実施結果の要約を示していただいた。

入谷先生は平成2年6月22日の地方会研修会に出発点のある本研究会のあゆみを纏められ、各回の要約を一表に整理された。その流れの中から、健康度評価を労働力の損失(疾病度・機能低下度など)

の方向へ当面しぼって考えたいこと。産業衛生学会の健康度の概念と健康管理の目的を合意の上で定量化に向うべく、トヨタ自動車では現在すすめている疾患別のランク付け(C₁C₂C₃D)と高脂血症対策(B₁B₂B₃)の基準表を提出された。

活発な討議のあと、島正吾先生・井上俊先生からアドバイスをいただいて終了。出席者は47名であった。

第34回全国産業健康管理研究協議会全国会議

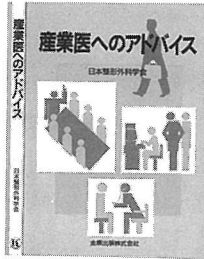
寺 沢 哲 郎 (東海銀行健康管理センター)

平成6年7月1日、第34回全産研全国会議が東京虎ノ門・ニッショーホールで開催された。今回の主題は「職域健康管理と情報処理」で、健康管理へのコンピュータの活用に関心を当てたものであった。午前中は、慶応義塾大学の小此木先生よりの特別講演「情報社会とテクノストレス」の後、全産研が毎年行っているアンケートの結果報告が行われた。午後は、まず「健康情報の有効利用をめぐる」というタイトルでパネルディスカッションが行われた。最初に全国の事業所を対象に行われた、コンピュータの利用に関するアンケート調査の結果が報告され、続いて大型コンピュータを導入している大企業からパソコンで産業医がプログラムを組んで活用している事業所までさまざまな事例が報告され、活発な議論が行われた。最後に聖マリアンナ医大の吉田先生より健康管理の情報化に関する基本的な考え方・方法について教育講演が行われた。健康管理へのコンピュータの利用について、さまざまな切り口から色々な情報の得られた有意義な会であった。

新刊紹介

日本整形外科学会編「産業医へのアドバイス」

岩井 淳 (全日本労働福祉協会)



この程、日本整形外科学会の産業医委員会(委員長 高橋定雄)が、整形外科産業医のためのガイドラインとして、「産業医へのアドバイス」という本を一般の産業医にも利用できるように1冊にまとめ出版しました。前半には整形外科の立場から産業医として必要な知識を、労働衛生の3管理、T H P、衛生教育についてうまく纏められており、後半には、産業医の実務として業務上疾病、とくに頸肩腕症候群、腰痛、振

動障害、Heberden結節、身体障害者の労働、作業関連疾患等について整形外科専門のドクターからいづれもたいへん分かりやすく書かれています。

この日本整形外科学会は大変産業医活動に積極的に取り組んでおられ、その活動の成果の一つとして、この本ができました。整形外科医にとってはもちろん、一般の産業医とくに新しく産業医になられた人あるいはなろうとしておられる人にとっても、大いに役に立つものとしてお薦めできる書物です。ぜひ一読下さい。

(A 5 判 240頁 3000円 金原出版 1994年)

これからの諸行事予定

第 4 回産業医・産業看護全国協議会

日時：平成 6 年 10 月 18 日 (火) 9 : 45 ~ 17 : 15

場所：愛知県中小企業センター

(詳細は P 5 をごらん下さい。)

平成 6 年度日本産業衛生学会東海地方会学会

学会長 井谷 徹 (名市大・医・衛生)

期 日：平成 6 年 11 月 19 日 (土) 9 : 30 ~ 16 : 30

(午前 一般演題、午後 特別講演等)

会 場：名古屋市立大学医学部

参加費：1,000円

特別講演：「21世紀にむけての産業衛生の課題」

演者：山田 信也 (名大・医・名誉教授)

座長：竹内 宏一 (浜松医大・公衛)

パネルディスカッション：

「21世紀にむけての産業衛生の課題」

- ・専属産業医の立場から
- ・嘱託産業医の立場から
- ・産業看護職の立場から
- ・衛生管理者の立場から
- ・労働者の立場から

事務局：〒467 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄 1

名古屋市立大学医学部衛生学教室内

日本産業衛生学会東海地方会 平成 6 年度学会事務局

TEL 052(853)8171 FAX 052(853)5004

会員の異動

新入会員

愛知 浅田恭生 (藤田保衛大医公衛)、安藤正昭 (オリエンタル労働協会)、伊藤高行 (名大医神内)、河村孝彦 (中部労災病院)、小島洋彦 (オリエンタルクリニック)、孫健 (名大医衛生)、都築實紀 (大同特殊鋼)、泊里泰子 (愛知医大四内)、ビクトル・ポールケス (名大医衛生)、藤嶋浩司 (中部労災病院)、松本美奈子 (石川島播磨重工)、山田幸生 (三菱電機稲沢)

岐阜 寺井美子 (N T T 岐阜)、新谷裕久 (朝日大歯口衛)、高田晴子 (岐阜大医衛生)

静岡 大河内由香 (浜松医大公衛)、加藤明彦 (浜松労災病院)、北倫子 (N T T 静岡)、近藤勝美 (ヤマハ発動機)、高槻京子 (松下電池)、田中久美子 (浜松労災病院)、土屋きわ子 (本田技研浜松)、土屋真知子 (静岡県産業環境センター)、中村留美子 (浜松医大公衛)、橋本光孝 (スズキ)、松田 功 (マツダクリニック)、武藤繁貴 (聖隷健診センター)、横村光司 (浜松労災病院)

三重 伊藤その子 (富士電機三重)、河南文子 (富士電機三重)、曾

我倫久人 (羽津病院)、村瀬さな子 (三重大医公衛)

退会者

愛知 赤池和範 (N T T 名古屋)、石垣まゆみ、生野忠徳 (豊田健康管理クリニック)、奥平昭子 (N T T 名古屋)、山上祥司 (N T T 名古屋)

岐阜 丸山晋二 (東海中央病院)

転出

愛知 瀬戸 明 (豊田地域医療センター・北海道へ)、静岡 松尾みどり (日通商事・東京へ)

理 事 会

平成 6 年度第 1 回理事会

日時：平成 6 年 5 月 10 日 (火)

場所：名大医学部鶴友会館大会議室 出席32名 委任状52名

1. 報告事項

- 1) 本部・事務局からの連絡事項 (島、柴田)
- 2) 皿井先生追悼座談会 (4月15日) (島)

2. 協議事項

- 1) 地方会ニュース第29号 (吉田)
- 2) 平成 5 年度会計報告、6 年度予算・事業計画 (柴田、吉田)
- 3) 平成 6 年度東海地方会総会並びに研修会 (飯田)
- 4) 第 4 回産業医・産業看護全国協議会 (小森)
- 5) 第 68 回日本産業衛生学会および特別研修会 (竹内)
- 6) 愛知県医師会産業医部会幹事の推薦 (竹内)
- 7) 関連学会・研究会

第 2 回理事会

日時：平成 6 年 7 月 12 日 (火)

場所：名大医学部鶴友会館大会議室 出席31名 委任状46名

1. 報告事項

- 1) 本部・事務局からの連絡事項 (竹内、柴田)
- 2) 平成 6 年度東海地方会総会並びに研修会 (飯田)

2. 協議事項

- 1) 地方会ニュース第30号 (吉田)
- 2) 第 4 回産業医・産業看護全国協議会 (小森)
- 3) 平成 6 年度東海地方学会 (井谷)

第 68 回日本産業衛生学会企画運営委員会 (第 1 回)

日時：平成 6 年 7 月 12 日 (火)

場所：名大医学部鶴友会館大会議室

協議事項

1. 特別企画案 (井谷)
2. 特別研修会企画案 (五藤)
3. 開催趣意書 (山田)
4. 学会誌への第 1 報 (柴田)

編集後記

来年 4 月の第 68 回学会の準備が急ピッチで進んでいます。余すところ半年と少しとなり、そろそろ特別企画の内容は固まってきました。当地方会が担当するのは 13 年振りとのことですが、前回の経験を生かしつつ、今後の学会のあり方を指し示すような新しい方向を打ち出せればと考えています。演題数などからみても学会がこの 13 年間に 50% 以上規模が大きくなっており、学会運営の立場から考えると、ある意味で転機にさしかかっているように思われます。前号では企画に関するアンケートをお願いしましたが、引き続き、今度の学会についてご意見、ご希望があれば気軽に事務局までお寄せ下さい。(柴田英治)

次回発行 平成 7 年 1 月 1 日

編集責任者 吉田 勉 (聖隷健診センター)

編集委員 (五十音順)

井谷 徹 (名市大) 岩井 淳 (全日本労働福祉協会)

大久保浩司 (東芝四日市) 加藤 保夫 (岐阜県産業保健センター)

鎌田 隆 (本田技研浜松) 後藤 猛 (前ヤマハ健康管理センター)

五藤 雅博 (旭労災病院) 榎原 久孝 (名大)

柴田 英治 (名大) 清水 高子 (清水ヘルスケア事務所)

高柳 泰世 (本郷眼科) 谷脇 弘茂 (藤田保衛大)

松本 忠雄 (名市大) 山田 琢之 (愛知医大産業保健科学センター)